JART企画
検査説明委員会

令和時代の検査説明を目指して
ーJART検査説明委員会の挑戦ー

山形県立中央病院 放射線部　荒木 隆博(Araki Takahiro)

【はじめに】

これまで医師は患者さんのために、検査の内容や注意事項について詳細に説明してきた。撮影方法や造影剤、検査時間などについても説明する医師もいる。また、放射線診療の正当化について説明することは、紛れもなく医師の役目である。だが、そのように細かく丁寧に伝えたつもりの検査説明が、患者には伝わっていないケースを皆さんも多々経験したことがあるのではないだろうか。どれだけ詳細な説明が医師によってなされたとしても、検査説明が適切に行われていなければ患者には十分に伝わらない。しかし、日々多忙な医師に適切な検査説明を求めることは現状難しいと言える。

【JART検査説明委員会の経緯】

そこで2007年から厚労省では、日本の実情に適した業務役割分担を推進してきた。2010年にはチーム医療の推進についての通知が発出され、読影の補助ならびに放射線検査の説明・相談が我々診療放射線技師に役割として課せられることとなった。そのような経緯があり、検査説明委員会の前身となる放射線検査説明・相談促進委員会がスタートすることとなった。2021年には医師の働き方改革の一環として厚労省より「現行制度の下で実現可能な範囲におけるタスクシフト/シェアの推進について」が発出されたことに伴い、現在の検査説明委員会に改組することになる。この医政局長通知のポイントは、2010年から検査説明・相談が診療放射線技師の役割として始まったと勘違いしているのは私達であり、国の判断ではそれ以前の診療エックス線技師法が診療放射線技師法に改正された時から問題なく実施できる業務であったという点である。放射線検査等の目的や必要性、具体的な手法、放射線被ばく、造影剤の副作用、安全性について、患者に適切に説明した上で、必要に応じて同意書を受領する必要があるのは当然のことであり、診療放射線技師を積極的に活用すべきであると謳われている。検査説明委員会ではこれまで、FAQや検査説明リーフレットの作成・更新、検査説明ガイドラインの作成・更新、検査説明の啓発や全国的実施の推進、教育（養成校・既卒、院内、国民）への展開、検査説明を業務領域として捉える、チーム医療への積極的関与・連携・協力、などを行ってきた。検査説明・相談は国からも期待されている診療放射線技師の重要な業務であり、診療放射線技師が行う検査説明は必ずや国民医療への貢献へ繋がると信じて、検査説明委員会は活動を続けている。

【適切な検査説明とは?】

検査説明の目的としては、患者のために安全・安心な検査を提供する、患者のために検査の内容を理解してもらう、患者のために納得してもらい協力を得る、患者のために検査の質を担保する、我々診療放射線技師やスタッフのためにトラブルを回避する、などが挙げられる。よって適切な検査説明・相談を行うことは、質の高い医療を提供できることに繋がると考える。ここで、適切な検査説明を考えるにあたり、現在流行中のChatGPTに医師と診療放射線技師それぞれの立場で、腹部造影CT検査の説明をさせてみた。このChatGPTは対話型AIサービスと言われ、プロンプトと呼ばれる命令文を入力することで応答してくれる。対話型AIサービスにはChatGPTのほかにも、グーグルではBard、マイクロソフトではChatGPTを活用したBing、などがある。ChatGPTは医師としても診療放射線技師としても、患者のためにCT検査内容や注意事項について詳細に説明してくれた。加えて、撮影方法や造影剤、また検査時間についても丁寧に説明した。医師としてのChatGPTはCT検査の正当化についても説明していた。そして、驚くべきは診療放射線技師としてのChatGPTが、患者を気遣うような言葉も返していたことである。このような優秀なAIサービスが拡がり、検査説明業務は今後どうなるのだろうか。2030年には我々診療放射線技師の仕事は63%自動化されるとも言われている。では検査説明も自動化されてしまうのだろうか。私はそうは思っておらず、やはり診療放射線技師にしかできない検査説明があると考える。相手との良好な関係性を構築するラ・ポールの形成、傾聴によって相手をよく理解し気持ちを汲み取り共感する、患者さんに合わせた説明によって伝える検査説明で

はなく伝わる検査説明、これらは診療放射線技師にしかできないと言える。これからはAIを上手に活用し、令和時代の適切な検査説明へ進化していくべきと考える。

【令和時代の検査説明を目指して】

当院における検査説明はと言いますと、オーダー時に医師や看護師が流れ作業的に検査説明を実施していたり、　検査実施前に看護師や診療放射線技師が簡易的に説明していたり、とまだまだ不十分と言える。そんな中でも、患者からの相談があれば放射線被ばく相談員が説明・相談を丁寧に実施したり、待合受付に大型モニターを使った検査説明のスライドショーを行っていたりするなど、人員不足の中でも工夫を凝らし、より患者さんに伝わる検査説明を心がけている。不十分な検査説明運用であるが故に、医師からの飲水や食事摂取に関する説明が伝わらずに脱水状態を引き起こし、副作用発現リスクを高めてしまったと考えられるケースも残念ながら経験している。適切な検査説明であれば防ぎえたかもしれない患者にとっての不利益を、我々診療放射線技師は無くしていかなくてはならない。

発展途上の当院とは違って先進的な取り組みを行っている国立がん研究センター中央病院では、令和3年10月より放射線検査外来を開設している。こちらでは以前からIVR術前訪問による検査説明を診療放射線技師が実施していた。その放射線検査外来での対象者はPET検査を受ける方と被ばく相談をしたい方としており、希望した場合は予約日放射線検査外来に来院していただき、診療放射線技師の担当者1名が対応している。検査説明件数は一日平均11件ほどで、多いときには20件の検査説明を行っており、説明した内容を電子カルテに保存する運用を行っているとのことである。検査説明内容を診療行為と同様にカルテに記載することは、現代の診療において大変重要な運用と考える。

最後に、この令和時代においてJART検査説明委員会ではCT検査説明動画を作成した。動画内では患者の目線から見たCT検査を再現している。当院ではこの動画をCT待合受付でスライドショーしており、患者やご家族ならびに当院スタッフから大変分かりやすいと高評価をいただいている。今後はMR検査やマンモグラフィ検査など他検査でも作成して行く予定である。会員のご施設でもこのような検査説明動画を活用していただき、患者さんやご家族への適切な検査説明の一助としていただきたい。また、ご視聴後はアンケートにも回答していただければ幸甚である。下記QRコードからJART-検査説明CT動画のYouTubeサイトにアクセスいただきたい（Fig.1）。

【まとめ】

やはり最適な放射線検査は適切な検査説明から始まると考える。全ては患者のために、ひいては我々診療放射線技師のために、令和時代の検査説明を実施していかなければならない。今後も東北地域の放射線検査説明業務の理解と普及に努めていく所存である。

検査説明CT動画/短縮版（3分半）

検査説明CT動画/フルバージョン（8分版）

Fig.1 検査説明CT動画のYouTubeサイトQRコード